

茶ぐわゆるんたく



163

面影もなく住み良い街へ
キャンプ・ブーン跡地へ

上の写真右側に写る守礼門は、1960（昭和35）年代、宇地泊にあった米軍施設「キャンプ・ブーン」の入口です。また隣接して「琉球警備連隊（琉球特別警備大隊）」本部が、米陸軍の技術施設や管理施設、住宅地区の保安を目的としてキャンプ・ブーンに置かれていました。戦前は宇地泊の民家が立ち並んでいましたが、戦後その場所は米軍施設となり、1960年代始めから周辺は外国人向け貸住宅が多く建設されました。



▲宇地泊 キャンプ・ブーン入口 年代不詳
中央右に守礼門が見えます。

下の写真は、ガジュマル公園前から南西方向に撮影したものです。上の写真と同じように写真中央に牧港

火力発電所の煙突が見えます。1974（昭和49）年キャンプ・ブーン全面返還後、「宇地泊地区区画整理事業」が行われ、住宅や公園、道路が次々に出来てきました。また2000（平成12）年宜野湾バイパスの開通や近隣商業施設により、軍事施設の面影もなく、住みやすい街へと発展しています。

【問合せ】
市立博物館 ☎8709317



▲宇地泊 現在の様子 2017(平成29)年

ぎのわんの 歴史・文化遺産

を歩く

—其の34—

今月も前回に引き続き、西普天間住宅地区で現在実施している埋蔵文化財発掘調査についてご報告します。

発掘調査地

今回は、西普天間住宅地区の東側に所在する「普天間石川原第二遺跡」の発掘調査を速報します。

普天間石川原第二遺跡は、平成27年度に実施した試掘調査によって新規発見された遺跡です。現在、試掘調査で遺構が確認された部分を中心に、主に6つの調査区分けて調査を進めています。この中で今回ご報告するのは、左上の図で赤く塗られた調査区です。

遺跡の内容

この調査区では、グスク時代の遺構やこの時期に堆積した暗褐色の地層が、試掘調査の際に確認されています。現在実施している発掘調査では、この

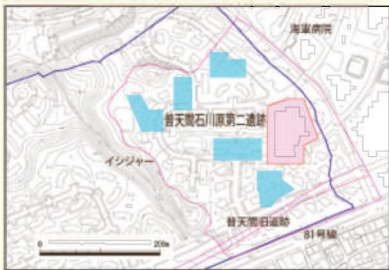
暗褐色土層が窪地を埋めるようにして堆積しているのを確認しています。窪地に堆積した地層には、焼土や炭、土器の小片が散在しているほかに、遺構も検出されているため、人間が何らかの目的でこの窪地を利用していたことがうかがえます。

窪地の利用

窪地は周囲から水が流れ込むため、居住地には適しません。その代わり、場所によっては耕作地として利用することができたと考えられ、市内では多くの窪地からその痕跡が確認されています。中でも普天間飛行場内に所在する野高タマタ原遺跡では、植栽痕が列状に検出されており、グスク時代の耕作活動がうかがえる貴重な遺跡となっています。

普天間石川原第二遺跡は、今年6月に発掘調査を始めたばかりであるため、遺跡の下層部分の調査はこれからです。今後の調査によっては、耕作活動の一端がみえてくるかも知れません。

【問合せ】文化課 8934430



▲調査区の位置



▲窪地の全景



▲窪地断面の清掃